

# 緑を活かした憩い空間

フエの人々の生活には様々な自然要素を巧みに取り入れたものが見られる。

その中でも憩える空間として、水辺や緑を活用した空間が多く見られる。この章では自然要素の中から緑に着目し緑を活かした憩い空間についてまとめる。

「憩い」として用いられる自然環境について

フエの京城内には、水、緑といった自然要素が多く、また様々な形で重なり合って存在している。

京城内では至る所で様々な種類の植物が見られる。道路脇に植えられた椰子の木等の並木、住宅街の各家庭の前庭で育てられる柑橘系の植物等バラエティーに富んだ緑環境が存在する。



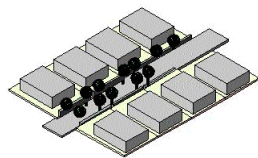
前庭から迫り出す樹木 No.



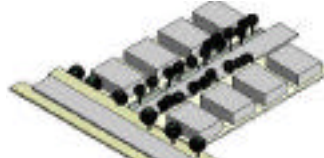
生き茂る街路樹 No.

## 緑を活かした憩い空間

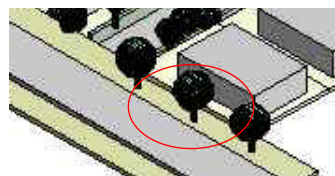
緑を活用した憩い空間は大きく「街並みとして」「生活空間として」の2つに分けられる。さらにそれぞれが「公共性」という視点で2つに分けられ、それらがフエの人々の生活に深く浸透している。



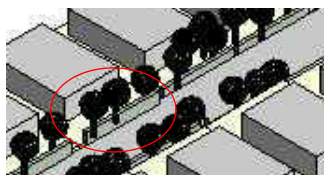
街並み1：街路樹による街並み



街並み2：庭の植栽による街並み



憩い空間1：公共的な憩い空間



憩い空間2：私的な憩い空間



木陰から眺めるフローティングレストラン

## 1. 「街並みとしての憩い空間」

街路樹による街並み形成

街路樹には計画的に植栽されたと思われるものや、昔からあった樹木により形作られているもの等がある。前者は、街のリズムを創り出すと共に、等間隔に木陰を作る事で、露店や子供の遊び場など様々なアクティビティを演出している。



王宮西側の並木



御河近くの椰子の並木 No.

前庭の植栽による街並み形成

住宅地でも前庭を有する伝統的建築が残る古い住宅街で多く見られる。各家が思い思いに植栽を施し、迫り出した植物により緑の連続した街並みが創り出され、門の上に花を置く事で華やかさも増している。

しかしショップハウス等の都市型住宅の増加から所々に緑の途切れる空間が現れ、住宅街の緑環境にも変化が開始している。



住宅の植栽による街の風景



門柱を飾る花 No.

## 2. 「生活空間」としての憩い空間

公共的な憩い空間

大通り沿いの街路樹や、大木の下で幅広い人に利用される公共的な空間が出来ている。カフェ、食堂からお年寄りの将棋の空間等様々である。しかもこれらは時間的に変化し、一つの場所でも刻々と変化する様子が見られ、

フエにおける木陰の重要性と、その下で行われる様々な活動に、人々のライフスタイルを垣間見ることが出来る。

カフェ

水上レストラン前は京城内で最も露天が賑わう場所である。ここは高さのある街路樹のため、木陰が出来ると11時頃から店が出始める。利用者は本を読んだり、会話を楽しんだり他の地区の露店に比べ比較的長い時間を過ごす。

ハンモック



木陰でのカフェ No.



ハンモックで休憩する人 No.

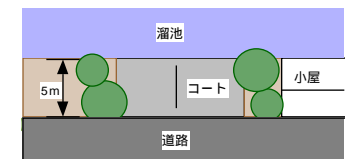
フエの至る所で見られるポピュラーな憩い空間である。中には大通り（自転車などの往来は激しいが歩行者は少ない）まで自転車で来てハンモックで休憩する人もいる。

バドミントンコート

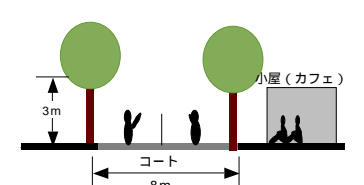
道路脇の街路樹の間のスペースをバドミントンコートとして活用している。早朝は大人が、夕方は子供達が利用している。その横にはカフェがありゲームを観戦している。



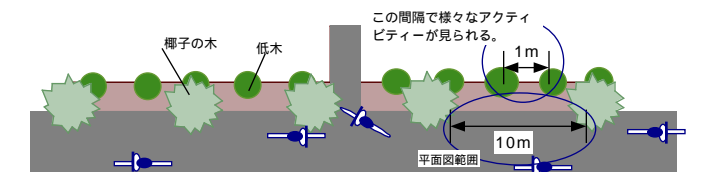
バドミントンをする大人達



平面図



断面図



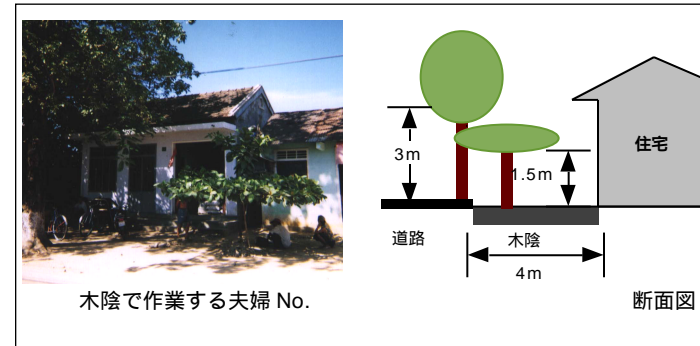
フエにおける緑を活用した景観、空間分布図

## 私的な憩い空間

主に大通りから一步入った住宅街の路地等で見られる。住宅（店舗）前の樹木に屋根から張ったシートを架ける事で台所や作業場として利用している。多くが自宅等の近くで行わるが、中には大通りまで自転車で来て街路樹にハンモックを引っ掛ける人までいて、皆思い思いの形で憩える空間を創り出している。

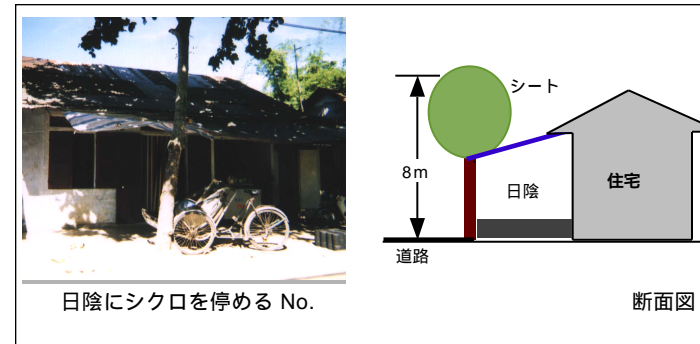
### 作業場

住宅と道路の間の空地に低木を植え、その下を作業スペースとして活用している。多くが穀物の加工等である。



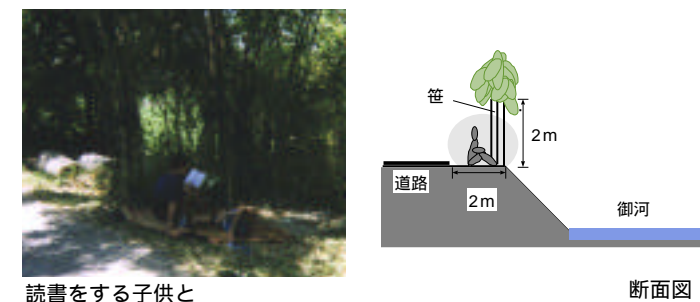
### 自転車置き場

住宅前の街路樹に屋根からシートを張って木陰を造り、そこにシクロやバイクを止めている。木陰を気にせずに日向にバイクを置くと現地の人々が日陰に移動してくれた。



### 本を読む

グハ沿いの道路の脇には笹の並木が多く見られる。この辺りでは笹の幹を束ねる事で日陰を確保し、同時に目隠しとしての機能を持たせる事で快適な休憩空間を創り上げている。



昼寝をする子供 No.

## まとめ

### 街並みについて

- ・地区毎に街路樹の種類が異なり、溜池や農耕地の周辺は見通しが確保される様な椰子等の樹木が多く見られる。
- ・その一方で王宮周辺の通りでは、通りとしての景観がつけられやすく、かつ木陰も出来やすい枝の広がっている樹木が見られる。
- ・幅員の広い街路に面する高級住宅街では、前庭に植栽をするだけでなく生垣をつくる事で、街全体に緑で溢れた静かな佇まいと、ゆとりを提供している。
- ・街路幅の狭い街路に面する住宅街では、前庭の樹木が街路に迫り出す事によって、緑に包まれた街並みを演出している。石造りの壁と頭上を覆う緑でトンネルの様な風景と、聞こえてくる住民の音がアットホームな雰囲気を醸し出している。

### 憩い空間について

- ・街路樹等を活かした憩い空間が多く見られる地区（開発されていない地区）の方が街路に人が溢れ、京城中心部の商業軸より賑わいを感じる。
- ・緑を活用した空間は様々な形で用いられフェのライフスタイルに欠かせない空間となっている。
- ・木陰、日陰を利用したライフスタイルは、自然の変化とリンクしたものであり、フェ特有の生活リズムといえる。

## 今後の課題

近年伝統的建築の減少と共に、都市的建築が増加している。これらの多くは建坪率を高める事で前庭を削り、結果として各住宅が有する緑が減少している。しかし元々街路幅の狭い住宅地では新たに街路樹を植栽する事は難しく、まち全体の緑が減少することが予想される。このことは街並みとしての景観が変化するだけでなく、木陰が減少する事によりライフスタイルが変化する事も予想される。

緑を利用した空間づくりはフェ独特の技術であり、自然と共生しているという点からもエコロジーな技術と言える。今後フェにおいても先進国からの様々な技術が入り込んでくる事は容易に予想されるが、その中でもフェの気候、風土に適したこれらの技術は守り、活かし続けて行くべきと考える。

このように貴重な自然資源及びエコロジカルな技術を維持するためにも、緑や水等の自然環境と住環境を一体的に維持するビジョンが必要と考えられる。